

P-2-3 統一的な集計方法の導入から比較検討への取り組み

佐藤真弓¹⁾、金村政輝^{1,2)}、菅原裕実¹⁾、栗原誠³⁾、山地さやか⁴⁾、佐藤信洋⁵⁾

1)宮城県立がんセンター院内がん登録室、2)宮城県立がんセンター研究所がん疫学・予防研究部、3)東北労災病院情報管理課、4)石巻赤十字病院管理課、5)みやぎ県南中核病院医事課

【目的】

院内がん登録のデータ活用の一つとして、他施設との比較が挙げられるが、一か所にデータを集めての集計は、各施設のデータ提供に対する考え方の違いや集約作業を行う施設の負担等から宮城県内の拠点病院間でも実現できていなかった。そこで、共通のフォーマットがあれば集計作業の手間を省かせずに集計値を持ち寄るだけで、データの比較ができるのではないかと考え、宮城県がん診療連携協議会でも検討し、当方の目的に合致した四国がんセンター方式の集計表を導入し、4病院で比較検討を行った。

【方法】

四国がんセンターより宮城県での使用許可を得たのち、「宮城県がん診療連携協議会がん登録部会」でスクリーンに映しながら導入について説明し理解を得た。診断時住所別の集計については愛媛県の医療圏および市区町村から宮城県のものに置き換える必要があるため、宮城県版のフォーマットも用意した。導入に際しては必要に応じて施設への訪問も行い、3施設からの依頼に応じた。フォーマットはメールにて配布とし、施設ごとのデータについては全国集計に提出したものをを使用した。

【経緯】

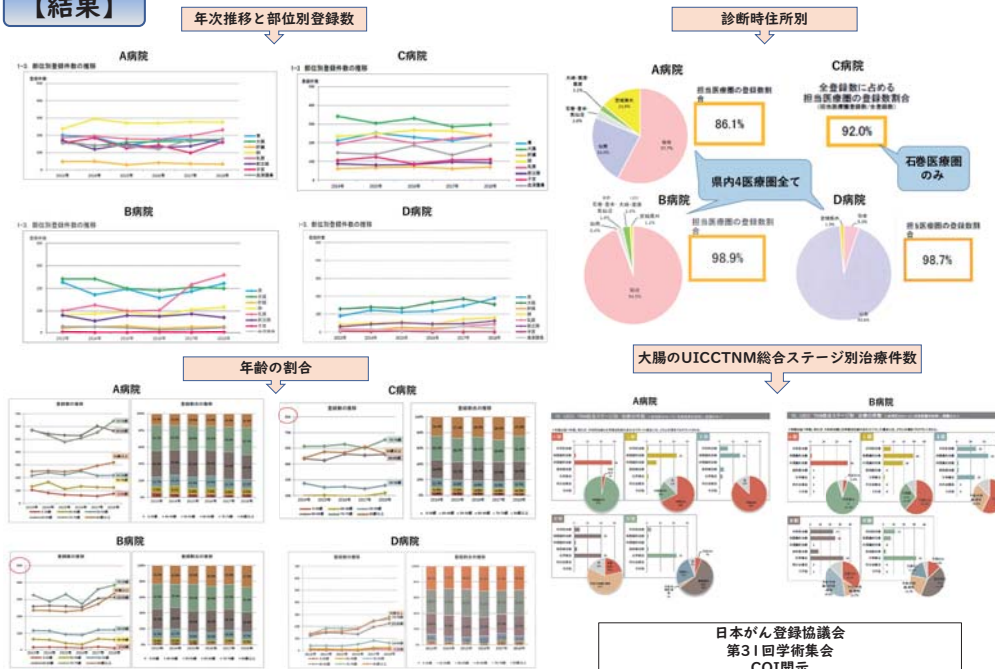
会議等	年月	2018年3月 (H30年度)	2019年5月 (R元年度)	2020年1月 (R元年度)	2021年11月 (R3年度)
H30年度第2回がん登録部会		四国がんセンター方式集計表について説明			
R元年度第1回がん登録部会			四国がんセンター方式のデモンストレーション及び導入の提案		
集計用ファイルのひな形		希望施設へ集計用ファイルの提供			
情報提供		訪問による作業補助についての提案			
訪問作業補助			2019年8月 (1施設)	2020年2月・5月 (2施設)	
比較検討					4つの県内拠点病院でのオンラインによる検討

*H30年度第2回がん登録部会で初めて四国がんセンター方式集計表の説明を拠点病院向けに説明した。その後、R2年の5月までに4つの拠点病院での導入が開始された。宮城県版フォーマット及び訪問作業補助は、宮城県立がんセンターが行った。現在、拠点病院以外でも導入が開始され、試用ではあるが更に2拠点病院で導入されている。

【比較検討】

*比較検討するにあたり、導入されている4拠点病院間で集計対象年や対象部位等の調査を行い、比較可能な項目等のすり合わせを行った。全体集計項目として「**年次推移と部位別登録数**」「**年齢の割合**」については、4拠点病院ともに複数年度での集計ができていたため2013年(あるいは2014年)～2018年で、「**診断時住所別**」は2018年単年度の比較検討となった。また、主要5部位中の「**胃と大腸のUICCTNM総合ステージ別治療件数**」(2018年)について比較検討を行った。

【結果】



【考察】

*院内がん登録データから、施設ごとの特徴の比較や登録精度の確認ができた。課題としては、視覚的に分かりやすいグラフにするために、数値の最大値・最小値や色を揃えることが挙げられた。今後さらに導入施設を増やして比較検討を行っていきたい。